

進路指導実践事例

文理選択・科目選択

自分の将来が明確な生徒はごくわずか。だからこそ、文理選択や科目選択では、

多くの生徒が「何となく」に流されていきがち。

そしてなかには、「こんなはずじゃなかった」と後悔する生徒も…。

そんな後悔や苦労を少しでも減らすため、各校で工夫されている先生たちの事例を紹介します。

取材・文／清水由佳

静岡・県立浜松西高校

「自分で選ぶ」経験の第二歩だから、 しっかりと決意させることを意識

生徒の興味と成績を考慮し 時間をかけて考えさせる

浜松西高校では、2学年に進級する際に文理を選択し、次年度の選択科目(講座)を決定する。そのために、1学年の9月から10月にかけて1年生全員に予備調査を実施し、10月初旬に保護者へ向けた二斉説明会を行う。その後約3週間をかけて、生徒には保護者とじっくり話をするよう促し、保護者の承認を受けた文理選択の本調査票を提出。なかなか決めきれない生徒には担任や教科担当が個別相談を繰り返し、12月中には一通りの文理選択が終了するというのが一般的な流れ。

「しかし、中には理系を選択していたものの、1学年の後半になって急に難しくなる数学や化学に不安を感じ始め、文系に変更したいと申し出てくる生徒もいます。そんな時は、すぐに受け入れるのではなく、2週間ほどよく考え、保護者と話し合ったうえで決めるように促します。特に、最終的にきちんと保護者と話しをし、承認をもらってから志望を提出させるといふこ

とは、生徒が進路をしっかりと考えるための重要なステップになっていると思います」とは、同校の数学担当・大

村勝久先生。それでも、時には、3月の定期試験の結果まで待ち、成績を考慮しながら生徒と話し合い、最終的に選択科目を決定することも。そこで大村先生が最も重視しているのは、生徒自身の「決意」のほど。

「最近の生徒は、自分の意思で自発的に何かを選ぶという経験が希薄になっています。だからこそ、文理選択は、将来するべき様々な選択への訓練の第一歩。まずは、自分はこれを選ぶ」という決意をもったかどうかを一番に考えます」

これまでも、文系の二次試験対策の講座として数学を「何となく」選ぼうとしていた生徒に、繰り返し面談を行い、本人の志望大学や受験科目などをよく調べさせて、改めて決意を固めさせてから選択を受け入れたということも。「おかげで授業にも良い緊張感が漂い、引き締まった良い授業になりましたし、生徒の学力も上がりました。決意はとても重要だと思います」



数学担当
大村勝久先生

>>> School Data
普通科／1924年創立
生徒数／688人
(男子362人・女子326人)
進路状況(2009年度実績)／
大学 97.0%・専門 3.0%
静岡県浜松市中区西伊場町3-1
TEL 053-454-4471
URL <http://www.shizoka-c.ed.jp/hamanatsunishi/>



進路指導主事
入江大介先生

広島・県立呉昭和高校

文理選択は、生徒の「主体」を 確立させる第一歩と捉える

年間を通じて、様々な キャリアモデルと出会う

呉昭和高校では、入学してすぐ、中学までの学習や生活を振り返ることで自分の進路適性を知る検査を実施。同時に、1学年から2学年にかけて、多くのキャリアモデルに触れる機会を作り、自分の生き方、在り方を考えさせる進路指導が行われている。

「今の子どもたちは、保護者以外の社会人と接する機会が少なく、自分の中に参考となるキャリアモデルがあまりにもなさすぎるんです。そのため、将来のために何かを選択しようとしても、どんな選択肢があるかも見当がつかない。しかも、自分から積極的に何かを調べたり、行動したりするのが苦手。文理選択や科目選択で、なかなか自分で選択できない生徒が出てしまうのは、そんなところにも原因があると思うんです」とは、進路指導主事・入江大介先生。だからこそ、進路指導部としては、1年生のうちからたくさんのキャリアモデルに出会い、学外の人も接して刺激を受けられる機会を作っている。

>> School Data
普通科 / 1983年創立
生徒数 / 230人
(男子110人・女子120人)
進路状況(2009年度実績) /
大学 71.4%・短大 9.1%・
専門 9.1%・就職 5.2%・
その他・未定 5.2%
広島県呉市焼山町字山の神
TEL 0823-33-9557
URL <http://www.kureshowa-h.hiroshima-c.ed.jp>

その主なものが、大学や専門学校を招いて行う「職業別進路講演会」、2年生も一緒に参加する広島大学の「オープンキャンパス」や社会人を呼んでの「プロフェッショナルに学ぶセミナー」などである。並行して、大学受験で重要になる科目選択に関して、安易な選択で先々後悔しないよう「希望進路実現のために」講演会を行ったり、大学生などの卒業生から受験体験や大学生活、就職活動などの話を聞かせてもらう機会も設けている。

「これらの多くの機会を通じて私が最終的に目指しているのは、生徒たちが主体的に考え、行動できるようにすること。その第一歩が文理選択なんです」
**迷っている生徒には、できるだけ
選択肢が狭まらないアドバイスを**

しかし、1学年では、自分が主体的に選択していくほど将来への考えが深まる生徒ばかりではない。迷ったり、決めかねたりしている生徒がいるのも事実。通常は、12月で文理選択の希望を決定させるが、その際、担任や教科担当の先生たちと相談を繰り返して、

将来の科目選択を意識した指導を行っている。

「文理選択で先々問題になるのは、将来の進路希望が変わった場合、科目選択がそれに対応できない場合があること。特に、本校のカリキュラムでは、文系の生徒が理系に変更することが不可能になるので、時には『選択肢を狭めないために、とりあえず理系を選択しておけば』というアドバイスを行うこともあります」。そんな入江先生は、最近特に「できるだけ生徒を校外に連れ出す(視野を拡げる)」ことを意識しているという。「広島大学などのオープンキャンパスへの参加だけでなく、当校では模擬試験の一部を、外部の公開会場で受けるようにしましたし、3年生には公開会場の進路相談会に参加するよう促します。校外に連れ出すことにより、刺激を受け、主体的に行動できるようなことを期待しています」

■呉昭和高校 1年生対象の主な進路行事

4月	高校生としての自覚を促す「オリエンテーション合宿」実施。中学までの学習を振り返る。進路適性検査も行い、自分の将来を客観視する。
6月	大学や専門学校の先生を招いての「職業別進路講演会(職業を知るセミナー)」実施。
8月	広島大学のオープンキャンパスに参加させる。
11月	大学入試状況や受験科目などによる「希望進路実現のために」講演会実施。
12月	文理選択の希望本調査。迷う生徒には、2年次進級ギリギリまで対応する。
1月	保護者向けのセミナー実施。
2月	社会人を呼んでの「プロフェッショナルに学ぶセミナー」実施。
3月	大学生などの卒業生を招いて、受験体験や大学生活の話をしてもらう。大学の先生を招いて、「模擬授業」を実施。



総合学科教諭
田熊 豊先生

神奈川・横須賀市立横須賀総合高校

「産業社会と人間」の授業で、自分の将来をイメージさせる

文理選択はないものの、時間割作成で科目を選択

総合学科の同校では文理選択は行わないが、毎年、生徒はそれぞれの能力や興味・関心などに応じて、多様な選択科目から授業を選び、履修科目を登録して自分だけの時間割を作成する。しかし、特に進路希望も曖昧な状態であることが多い1学年での時間割作成は、ともすると「試験がなくて単位が取りやすい」といったような理由で科目を選ぶことも。また、学年が進むに従って進路の志望が変化し、選択した科目への興味を失い授業に身が入らないという事態も招きやすい。そこで、同校では、1学年の必修科目である「産業社会と人間」の時間を利用して、できるだけ具体的に自分の将来をイメージするよう指導している。

「当校の生徒は、多くが大学や短大への進学希望者ですが、さらに先の職業をきちんとイメージすることで、何を学びたいのかも明確になってきます。そこで、1学年にはこの授業を中心に職業調べにじっくり

>>> School Data
総合学科 / 2003年創立
生徒数 / 961人
(男子400人・女子561人)
進路状況(2009年度実績) /
大学 51.0%・短大 10.0%・
専門 20.0%・就職 6.0%・
その他 13.0%
神奈川県横須賀市久里浜6-1-1
TEL 046-833-4111
URL <http://schoolnet.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/schoolnet/highschool/301soujou/>

取り組み、将来を具体的に考えられるよう指導しています」とは、総合学科教諭の田熊豊先生。

まず4～5月は、グループでの職業研究。グループごとに、職業分類の表にある職種名を参考にしながらディスカッションを行い、「臨床心理士」や「アナウンサー」などそれぞれに興味を持った職業を決定し職業調べを行う。さらに夏休みには、興味のある大学のオープンキャンパスに参加したり、職業体験を行ったりして、より具体的に自分の将来を考えるよう指導している。最初は漠然としていた生徒たちも、自分が将来どんな社会人になりたいのか、職業や学びたいことなど、将来の志望が徐々に見えてくる。

授業だからこそ、真剣に取り組む成果にもつながりやすい

「これらを授業として行う意味も大きいです。成績がつかまずし、担任と副担任の2人体制で指導しているの、生徒はかなり真剣に取り組めます。また、生徒は1人1台パソコンを利用してしますので、グループで調べたことを参考にしながら、さらに個人でも、

横須賀総合高校 1年生が行う時間割選択への流れ

4～5月	職業調べ(グループ)
6～7月	時間割選択のシステム説明と進路説明会
夏休み	進路研究(学校見学や職業体験など)
9月	科目体験授業 時間割作成(3学年までの長期のものも考えてみる)
11月	2学年の時間割の仮登録
12月	2学年の時間割の本登録

興味のある仕事や学校について、インターネットなどで具体的に調べるよう指導します」
最終的には、職業調べで見えてきた将来の希望を踏まえたうえで、どのような科目を選択していくべきか考え、実際の履修計画を立てていくのだが、履修計画に関する生徒の満足度は高いという。
「『産業社会と人間』の授業のなかで、履修計画について調べた生徒たちがいたのですが、アンケートをとった2～3年生の8割が選択した科目に満足しているという結果が出たようです。何となくおもしろそうというだけではなく、将来を考えたいので、例えば大学受験の試験科目を意識した選択をするなど、自分が選択した科目が何に必要なのか、どうしてこの科目を選択したのかということがわかっていくからこそ納得感が高いのだと思います」



職業指導部長
井上仁志先生

兵庫・県立神戸商業高校

将来に直結する選択だからこそ事例を交えて繰り返し説明する

選択科目と取得可能資格の関係など数多くのモデルプランを示す

同校の商業科では、2学年に進む際、大学短大や専門学校への進学を目指す「進学類型」と、主に就職を意識した「総合類型」に分かれる。しかも、「総合類型」を選択する生徒は、興味関心に応じて、自分でカリキュラムを選択できるよう準備された4つの系のいずれかを選択する必要がある。

「さらに、それぞれの類型系によって12単位分の選択科目があり、どの科目を選択するかも同時に決める必要があります。商業科の場合、進学でも就職でも、どんな資格を取得しているかということ、進路を決めるうえで非常に重要になってきます。進学ならば、専門高校推薦という枠があり、日頃の成績だけでなく一定の資格取得が条件になりますし、就職の場合、どんな資格を取得してきたかということとは、企業の選考の際に大いに参考にされます。だからこそ、将来を見据えた選択をさせないと、後からあの資格を取っておかなくちゃいけなかったのに」と

>>> School Data
商業科・情報科・会計科/1878年創立
生徒数(商業科)/587人
(男子129人・女子458人)
進路状況(2008年度実績) /
大学 32.3%・短大 6.3%・
専門 25.9%・就職 35.4%・
兵庫県神戸市垂水区星陵台4-3-1
TEL 078-707-6464
URL <http://www.kobechs.ed.jp/>

いっても、間に合いません。そこで、1年生には、何度も繰り返し類型説明や選択の仕方の説明を行います」とは、職業指導部長の井上仁志先生。説明する際には、どこをどう選ぶとどんな進路になるのかというモデルプランもできるだけ具体的に出すようにしているという。

「事務職を目指すのなら、簿記だけでなく、電卓やワープロの資格も必要になるので、どの授業を選択する必要があるかとか、ファイナンス系なら情報処理の勉強なども必修になるとか。2学年、3学年の2年間で目指すべき資格選択プランなども提示して、具体的に理解できるように心がけています」

商業科目以外の教科の担任には事前に先生同士でレクチャーも

これらの指導は、三者面談や学年集会などの説明会だけでは到底理解が浸透しない。具体的に「自分のこと」として理解させていくためには、日常的に生徒と接する担任や、各専門教科の教員の働きかけも重要だという。12月に類型や選択科目が決定して

も2学年直前まで迷う生徒もいるため、何度も個別面談を繰り返しフォローするなど、特に担任が果たすべき役割が大きい。

「商業科の専門教科の教員であれば誰でもわかることでも、他の教科の担当の先生は、最初はなかなかわかりづらいことがあるはず。なので、当校では、事前に専門教科の教員による担任へのレクチャーの時間もとるようにして、誰もが同じ情報をしっかりと共有できるようにしています。また日頃からよく担任と専門教科の教員が話をすることで、何かあればすぐフォローに入れる。そんな関係づくりも大切だと思います」

神戸商業高校 商業科の類型分けと選択のプロセス

【2学年に進級する際、以下の5つのうちのいずれかを選択する】

- (1) 進学類型 ※大学・短大、専門学校などへの進学を目指す
- (2) 総合類型 ※職業により直結した4つの系のいずれかを選択する
・ファイナンス系 ・ビジネス情報系 ・ビジュアルデザイン系 ・サービス経済系

【選択のプロセス】

5月	保護者向け説明会
7~8月	(夏休み中)担任による三者面談で、個々の希望に応じた類型選択についての説明
9~10月	学年集会で、類型説明と選択科目説明
10月	類型希望調査
11月	類型分け作業
12月	類型・選択科目を一通り決定する